

冬の星空

今年(2000年)は西暦2000年、ミレニアムの年、オリンピック開催の年、そして閏年。つまり2月は29日まであって、いつもの年よりも1日多いわけです。2月上旬は、まだ真冬の星座が夜空にあり、下旬になると春の星々が輝きます。夕方の西の空には、ひととき明るく輝く木星の姿が目につくようになります。

また、夜ふけになると、早くも北斗七星から伸びる春の大曲線やしし座、おとめ座といった春の星座の星々を、東天に見ることができます。

<いつも、見慣れてる“月”ですが…>

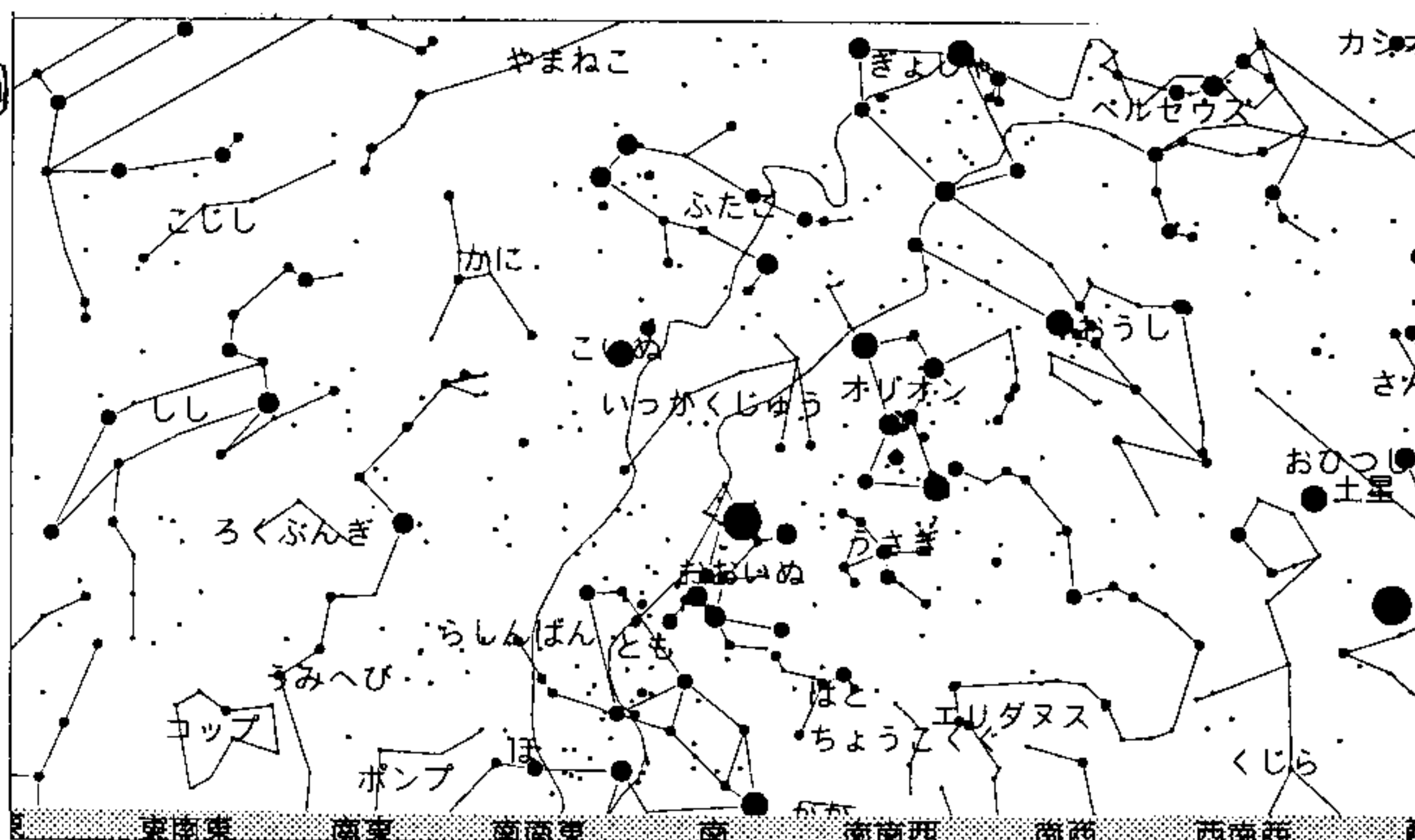
地球の衛星である月までの平均距離は38.4万Km。しかし、月は地球から離れたたり、近づいたりしながら地球のまわりを回っています。2月1日は、地球から月までの距離はおおよそ40万Kmまで遠ざかります。よく見ると、ほんの少し小さくなった月を見ることができるでしょう。

—＜2月の星空カレンダー＞—

1日(火) 月が最遠(40万Km)
5日(土) ●新月
13日(日) ◐上弦の月
20日(日) ○満月
27日(日) ◑下弦の月

右の星図は、2月中旬の夜9時ごろ、南の方向を中心に見た星空です。

南西に明るく輝く星が木星、そしてそのすぐ東側のやや明るい星が土星です。



【水星】夕方の西天で15日に太陽から最も離れるので夕方見やすくなる。中旬に-0.5等級

【金星】明け方の南東天で輝く明けの明星。望遠鏡では三日月のような金星の姿が見えます。

【火星】夕方の西空低く見える。夜8時には沈む。

【木星】うお座からおひつじ座を移動する木星は夕方の西空にある。夜10時には地平線に沈みます。観望は高度が高いうちに…。

【土星】おひつじ座を移動する土星は木星の東側（南に向かって左側）にあります。

<<<水星・火星・木星・土星が同時に見える2月16日>>>

2月中旬、西の夕空から東へ水星・火星・木星・土星が同時に見えます。また小惑星「I r u m a」（少し暗くて見えませんが）も水星と火星の間にあります。明るい惑星たちがそろって見えますので、夕方早めに双眼鏡を片手に、どこか西天の見晴らしのよい場所に出かけて観望してみましょう。児童センター天体観望会では、天文台の望遠鏡でお客様にご案内しています。

